

## 4) 母子保健における糖尿病対策について

資料8

### (1) 妊娠糖尿病の実態把握について

- ①目的 平成27年3月に策定した「草津市糖尿病対策ガイドライン(第2期)」に基づき、母子保健において、妊娠糖尿病についての実態把握を行い、今後の取り組みについて検討を行う。
- ②対象者 平成27年度すこやか訪問(新生児訪問)を行った者のうち、妊娠糖尿病の診断を受けた母。(協力を得られた人5/10人)
- ③調査方法 訪問もしくは電話による生活実態の聞き取り

### ④実態と課題

#### 取り組んでいたこと

**実態** ・野菜を先に食べることや、分食をする。  
・食前・後の血糖測定する。  
・インスリン自己注射をする。  
・専門医へ紹介後、受診継続が出来ていた。

**課題** 妊娠糖尿病発症後、専門医の指導を受け、妊娠中自身と胎児のためにと前向きに取り組むことが出来、周産期トラブルを予防出来ている。

#### 辛かったことや・取り組めなかったこと

**実態** ・食事後、血糖値が上がるのが怖い。  
・産後の受診継続が出来ていない。(子どもの育児中心になり、自身の体調を顧みれない。ただし、医師の助言があれば、受診が出来ていた。)

**課題** 妊娠糖尿病の療養中は妊婦への身体的・精神的負担が大きい。出産後負担は軽くなるが、自身の体調を振り返る余裕がない。

#### 妊娠糖尿病リスク・生活習慣

**実態** ・母が低出生体重児  
・高齢妊産婦  
・糖尿病家族歴  
・妊娠前、父の死をきっかけに過食し、体重が増加した。  
・妊娠前、居酒屋のアルバイトで夜中に賄いを食べ体重が増加した。

**課題** 妊娠糖尿病発症した母は、今後糖尿病発症の恐れがあり、糖尿病予防が必要である。

#### 妊娠糖尿病への思い

**実態** ・妊娠前は、自分は糖尿病とは関係ないと思っていた。  
・妊娠糖尿病を発症し、妊娠糖尿病について始めて知り、不安になった。  
・今後の生活で自分の体調を気遣わなければならないと感じている。

**課題** 若い世代にも糖尿病について啓発が必要である。

### ⑤今後の取り組み

妊娠糖尿病の母に産後の受診勧奨を継続して行う。妊娠糖尿病を含め、糖尿病対策として、関係部署と情報を共有し、各個人が健康に興味、関心を持てるよう、啓発方法や健診のあり方について検討をしていく。

### (2) 乳幼児健診における肥満児への指導

#### ①平成28年度乳幼児健診における肥満児の指導

糖尿病対策の取り組みとして、平成27年度保健推進部会で保健指導のあり方について検討し、平成28年度2歳6か月・3歳6か月健診における肥満児へ積極的に保健指導を行った。

#### ②2歳6か月・3歳6か月健診における肥満児への保健指導方法

平成28年7月より開始

肥満度15～19%の児

- 1)リーフレットや母子健康手帳身体発育曲線で肥満度について説明
- 2)生活習慣の聞き取り、幼児期の肥満が及ぼす影響について説明

肥満度20%～29%の児

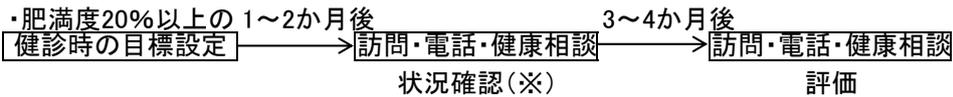
- 1)～2)は上記同様 3) 取り組めそうな生活目標を一緒に考える(具体的に2,3個)
- 4) 食事栄養面の課題があれば、栄養相談につなぐ

肥満度30%以上の児

・肥満外来の受診勧奨をし、健診時の保健指導は20%児と同様に1)～4)を行う。

②フォロー方法について  
・肥満度15%～19%の児

2歳6か月健診	次回健診
3歳6か月健診	4歳時に電話



(※) 取り組み状況の確認、実施出来ている目標は継続の支援。出来ていない目標は目標の見直しと動機付け

②平成28年度乳幼児健診における肥満児の指導の実績(平成28年7月～11月受診者)

2歳6か月健診

単位: 人

全受診者	肥満度	人(%)	(再掲)医療機関管理中	(再掲)生活目標立案者
500	15～19%	9(1.8%)	0	—
	20～29%	4(0.8%)	1	3
	30%以上	0(0%)	0	0

3歳6か月健診

単位: 人

全受診者	肥満度	人(%)	(再掲)医療機関管理中	(再掲)生活目標立案者
579	15～19%	3(0.5%)	1	—
	20～29%	5(0.9%)	0	4
	30%以上	0(0%)	0	0

※生活目標立案拒否について…3歳6か月健診にて、前回健診時肥満度24.6%から20.8%へ数値の改善が見られ、母が児の食事について気を遣っているとの理由にて1名。医療機関管理中にて1名、合計2名。

③保健指導時の状況

- ・食生活については、兄弟がいる事例では、兄弟の影響でスナック菓子をよく食べるなどがあった。
- ・生活目標は、バランスよく食べることや、おやつを決めた量にすることや、外遊びを増やすなどがあげられた。
- ・肥満度15～19%の児については、体格的に見て太り気味ということで、保護者が肥満に対しての意識が低く、保健指導に至っていない事例や、保健指導時に保健師の認識不足により、肥満について取り上げていない事例があった。

④事後フォロー(3名実施 H28年12月時点)

- ・3例全て、取り組める目標は、健診以後継続出来ていた。
- 例)・朝食時の牛乳の量を減らす。  
・野菜を多く摂取し、食事のバランスを心掛けるようになった。等

⑤課題

- ・肥満度15～19%の児の保護者の多くは、肥満の話をして、母から肥満に関して危機感を感じる発言が少なかった。
- ・肥満度15～19%の保健指導については、職員への肥満児の指導実施の徹底が十分に出来ておらず、指導が未実施になっている事例があった。
- ・食事やおやつとの与え方が、子どものペースになっており、欲しがらだけ与えている家庭がある。

⑥今後の予定

- ・肥満度20%以上の児については、保健指導後の生活改善状況や体重・肥満度の変化等について、引き続きフォローしていく。
- ・個々の事例を通して、取り組み状況を確認し、児を含めた家族全体の生活習慣を見直せるよう、啓発、保健指導、保健指導の効果について評価をしていく。(乳幼児期から望ましい生活習慣を身に付けるために、親がコントロールしていくことの必要性を含めて正しい知識を学んでもらう。)
- ・肥満は歯のリスクが高くなる為、保健指導時に歯科の指導についても、強化していく。